

平成28年度 第3回豊田市スポーツ推進審議会 会議録

【日時】 平成28年12月20日(火) 午後3時00分～5時00分

【場所】 豊田市役所 教育委員会議室

【出席者】 (委員) 高橋 義雄 (筑波大学大学院人間総合科学研究科准教授)《会長》
松尾 貴光 (中京大学 執行役員企画局長)《副会長》
熊谷 謙蔵 (豊田市区長会)
梅村 正幸 ((公財)豊田市体育協会 事務局長)
本多 重之 ((一社)豊田青年会議所 LOM 政策協議会議長)
徳田 康 ((公財)愛知県サッカー協会 専務理事)
桑田 厚司 (愛知県ラグビーフットボール協会 理事長)
徳増 年彦 ((株)豊田スタジアム 取締役事業推進部部长)
廣瀬 佳司 (トヨタ自動車(株)人事部 トヨタスポーツ強化グループ主幹)
町田 淳 (前(株)名古屋グランパスエイト マーケティング部部长)
北垣 啓子 (公募委員)

【欠席者】 (委員) 兵藤 おさみ (豊田市スポーツ推進委員協議会 副会長)
藪押 光市 (豊田商工会議所 事務局長)
中井 久美 (豊田まちづくり(株) まちづくり推進部次長)
里園 友紀 (エフエムとよた(株) ラジオラビィートパーソナリティ)

【事務局】 福嶋 兼光 (教育長) 宮川 龍也 (教育行政部長)
大谷 哲也 (教育行政部副部長) 前田 雄治 (経営戦略室政策監)
田中 茂樹 (経営戦略室政策監) 西脇 委千弘 (経営戦略室副参事)
久野 賢児 (文化振興課課長) 荻野 光貴 (豊田市観光協会)
深谷 康史 (経営戦略室副主幹) 山内 康資 (商業観光課担当長)
杉浦 智文 (企画課担当長) 杉山 寿美雄 (スポーツ課長)
後藤 直樹 (スポーツ課副課長) 畔柳 隆二 (スポーツ課担当長)
太田 信人 (スポーツ課担当長) 小石 拓也 (スポーツ課主事)

【傍聴人】 0人

【次第】 1 会長あいさつ
2 教育委員会あいさつ
3 議題
(1) 豊田市スポーツコミッション(仮称)に関する提言について
(2) 豊田市スポーツコミッション(仮称)の今後の活動について
(3) スポーツコミッションに関する市の動向について
4 その他

■会長あいさつ

年末のお忙しい中、審議会にご参集頂きましてありがとうございます。今、スポーツ界は大きく変わっていると感じています。政府が、大学のスポーツ振興のためにタスクフォースを設置し、2週間に1度程会議をやっていまして、大学スポーツにおける日本版NCAA（全米大学体育協会）を作って、アメリカの様に大学スポーツの産業化を図ろうとしています。中京大学も対象になると思いますが、日本の各地区の大学が核になってスポーツを産業化するというものです。総合型地域スポーツクラブでやってきたスピード感より早く地域にスポーツのサービスができるのではないかと議論が始まりつつあります。学生が地域サービスをするだけでなく、学業もしっかりやりながら単位も取って卒業していくということも担保できる日本版NCAAの設立の方向で動いています。大学や総合型地域スポーツクラブ、今回のスポーツコミッションを核に、スポーツで稼ごうというスポーツ庁の鈴木長官の方針があり、この年末、本当に忙しく動いていると感じています。

私の本の紹介をさせて頂くと「国際スポーツ組織で働こう！」という本を出版します。スポーツ庁の国際スポーツアカデミーで得た知見を基に、どうしたら国際的な組織で日本人が働けるようになるかということをもとめたものです。今年のクラブワールドカップに出場しているリアルマドリードの日本人職員の方にもインタビューをしています。どうしたら世界のスポーツ界に日本人が入り込めるか、上流に行けば行くほどルール改正、全てのマーケティングの調整ができる立場になってきますので、その人たちにいち早くコンタクトできる仕組みを日本に作れないかという内容です。

そういう意味では豊田市はいち早くスポーツコミッション設立に向けて動いているので、オリンピックやワールドカップと連動したスポーツ推進施策が出来るのではないかと感じています。今日も是非活発な議論を宜しくお願いします。

■教育長あいさつ

改めまして皆さんこんにちは。今日は年が押し迫る中、ご出席いただきありがとうございます。この審議会ですが、2年間を掛けてスポーツコミッションについてご議論を頂くということで進めてまいりました。昨年に委員構成を一新し、今日は本年度最後の審議会ですので、2年間の取りまとめをやっていただきたく、どうか宜しくお願い致します。

豊田市では審議会の議論と並行しまして第8次総合計画の策定を進めてまいりました。中身も概ね固まりまして、昨日の市議会で基本構想が可決承認されました。第8次総合計画の目標年次は2040年になります。少し先の社会を見ながらも、当面は向こう8年間を見据えて様々な展開をして行く中で、重点的な施策として3つ挙げています。1点目は、「超高齢社会への適応」、2点目は「産業の強靱化」、3点目は「暮らしてよし、訪れてよしの魅力創出」です。以上3点を向こう8年間の実践計画の中で特に力を入れて取り組んでいこうということをもとめています。そう考えた場合に、スポーツ分野において色々な貢献ができると思っていますので様々な展開をして行きたいと思っています。

2年間かけてご議論いただきましたが、今回の会議を経てご提言を頂くことになります。さらに加えて申し上げれば、これはスポーツに限らず、例えば文化や映画などの様々な分野のコミッションが考えられますので、スポーツを切り口としたコミッションをベースとしながらより広い形でこれからのまちづくりに生かしていきたいと思っています。どうか、活発なご議論

を頂きまして、おまとめを頂きますよう、宜しくお願い致します。

■議題（１）豊田市スポーツコミッション（仮称）に関する提言について

事務局：資料に基づき説明

会 長：ありがとうございます。ただ今の説明についてご意見やご質問等ありましたらお聞かせください。

委 員：第８次総合計画の重点施策説明に関してですが、組織の再編成をし、生涯活躍部という部署ができるであろうということでした。今は教育委員会の中にスポーツ課があると思いますが、この形はこのまま継続するのでしょうか。それとも、この生涯活躍部の中にも同じような部署ができるのでしょうか。

事務局：今は教育委員会にスポーツ課がありますが、そのまま生涯活躍部の方に移るとのことになると思います。

委 員：学校教育の部分のスポーツ関係は学校教育部の中で対応されるということですか。

事務局：そうです。現状とそこは変わらないと思います。学校教育で行われている業務、学校授業の体育などは、教育委員会にそのまま残ります。

委 員：その一方で、社会体育はこの生涯活躍部の方へ移るのですか。

事務局：その通りです。

会 長：同じく、第８次総合計画の重点施策３の、「暮らしてよし・訪れてよしの魅力創出」の２番目の「世界に発信するまちぐるみの観光・交流の取組の推進」はまさしくスポーツコミッションがやるべきことだと思います。この中の「都心における施策の推進」というのは、東京都で豊田市のPR展開をするという意味でしょうか。都心という意味を教えてください。

事務局：豊田市駅前周辺のことです。豊田市の都心部という意味です。

会 長：豊田市の都心部における施策を調整する課として経営戦略課ができるということであれば、スポーツコミッションもそういう部署と連動していかないといけませんね。

事務局：はい、連携を取っていきます。

委 員：第８次総合計画では、部局編成も含め、新たな部署もできるのだなという感想です。「スポーツ、文化等を一体的に、生涯にわたり市民が健康に活躍できる」というコンセプトも非常に分かり

やすいと思います。ただ、部局が新しくなればなるほど、思っていた様に機能しないケースもあるかと思うので、その辺りについて、上位部局が全体を見渡すといった仕組みはあるのでしょうか。

事務局：生涯活躍部というのは、教育行政部などと並列で、その上に副市長がいて、市長がいるという組織なものですから、部局間の調整機能はトップマネジメントでやるということで、特別職がやっていくことになります。

会長：おそらく、スポーツコミッションを担当するスポーツ課が生涯活躍部に移るので、スポーツコミッションを担当する部署は主に生涯活躍部になるということですね。おそらく、ほかの部局との横断的な活動もして行かないといけない。生涯活躍部をメインにしてスポーツコミッションが部局横断的に動くという風に受け止めています。因みに観光協会はどこかに再編されるのですか。

事務局：産業部という部がありまして、そこに観光協会も含まれます。それについては、来年度以降も変わりません。

委員：まだまだスポーツコミッションという概念が国民に浸透していない現状において、意義やあり方を提言として、ある部分はさらに踏み込んでまとめて頂いたことに感謝いたします。スポーツ課をはじめ、事務局、関係された皆様のご尽力に改めて敬意を表したいと思います。

ただし、この提言案はあくまでもスタートラインに着くためのものであって、これからどのように魂を入れていくのかということが共通の課題認識であろうかと思えます。資料に「第一期は専任スタッフ3名で対応」とありますが、例えばツーリズムとよたの事務局長のようなスペシャリストの方が中心になってどんどん推進していかれるという方向が一番有効だと思います。資料に「知識のある人の雇用も検討する」というような文言が付け加えられましたが、体育協会の中で今後どのような展開を具体的に想定しているのか、果たしてそういった人材がいるのかも含め、その辺りのイメージをお知らせ頂けたらと思います。2019年のラグビーワールドカップなどのことを考えると待たなしのタイミングですので、最初にきちんと考えておかなければならないと思います。

事務局：今まで皆様と一緒に議論をしまいいりまして、体育協会を事務局とするという提言案になっていますが、冒頭お話をさせて頂きましたように、スポーツ、文化、芸術を一体的に捉えることになったものですから、事務局体制はおそらく体育協会ではなくスポーツ課がこのまま引き継ぐことになると思います。今、質問がありましたラグビーワールドカップにつきましては、専門部署が今でもあるのですが、改めて大会名称の付いた部署ができますので、そちらが組織委員会と一緒にやっていきます。現場のノウハウを持っているスポーツ課と一緒に、おもてなし事業のようなことが必要であれば我々が協力していくという形になっていくと思います。

委員：ということは、一応組織としては体育協会の中に部署ができるものの、人としては市からの出

向の方が中心になるということでしょうか。

事務局：体育協会に事務局を置くと言ったものの、ここで一旦保留になると思います。先ほども申し上げました通り、スポーツに特化してコミッションを作っていくのではなく、スポーツ、文化と一緒に考えていくということになりました。スポーツ分野は先行していると思っていますので、スポーツ課が音頭を取ってやって行くということになります。

会 長：つまり、我々が議論してきたことをまとめて提言はしますが、第8次総合計画における市当局の様々な編成の中で、提言を踏まえた上で、様々な議論が改めて起きるということで、今回示された提言、骨子の中の組織イメージとは若干異なる可能性があるという理解でよろしいでしょうか。

事務局：その通りです。

会 長：提言が教育長に提出されて以降、新組織の内部で計画を揉む場所があって、その中で再度具体的な案作りがされるということだと思います。おそらく、その先はどうなるのかという質問だと思いますが、結論として決まっているわけではなく、まだ議論があるということですね。

事務局：はい。その議論は、今後のあり方や事務局体制も含めスポーツ課が中心になって、文化振興課なども一緒になって議論をしていくことになると思います。ただその中で、スポーツに関する取組はどんどん進めていきます。

会 長：文化振興課から、文化系コミッションを作るまで待ってください。と言われるとこれまでやってきたことが止まってしまうので、その意味ではある程度進めて行かないといけないというのが委員の皆さんの共通した意見ではないでしょうか。

事務局：文化分野に駆け足で追いついてきて頂くことになると思います。

委 員：体育協会としましても、この骨子案ができた段階で色々協議をしました。スカイホールには待ったなしで毎年全国大会が来ますので、イベントに関しては体育協会の職員で対応して、おもてなし事業も継続してやって行くということです。参加者に温泉などプラスアルファを求める声があれば、調整をしながら事業をどんどん拡大していきたいという考えを持っています。ここで事業を止めるのではなく継続していきます。

会 長：我々はスポーツ推進審議会なので、文化については触れてこなかったのですが、昨今の議論の中で文化という言葉が良く聞かれるようになりました。私は以前スポーツ庁の委員も務めていたのですが、急に経済産業省の動きが活発になり、産業構造審議会の臨時委員の依頼があり、地域産業分科会の委員に加わりました。そこで議論をしている内容が、企業立地促進法を今後どうするかという議論で、今の企業立地促進法の評価や問題点について議論をしています。

これまでの企業立地促進法に関する議論は地域経済を牽引する製造業を中心に地域経済を

考えようという議論でしたが、私が委員に入ったのは、経済産業省としてスポーツ、文化、観光、IT、さらに先端製造業を中心とした地域経済の活性化も企業立地促進法の対象にしていくという議論をするためだと思います。おそらく今後改正案が出てきます。例えば、愛媛県今治市では、FC今治を核として、スタジアムを建設し、隣接して巨大なマーケットモールを作る構想があります。このような、スポーツを核とした都心部の再開発に対しても企業立地促進法の対象としていくというような議論です。企業立地促進法をスポーツ以外の文化や観光、ITなども絡めて考えていくと、例えば規制の緩和や特区の設置、固定資産税の減免など、今まで企業の工場立地を推進する目的で作られた法律がそういった目的に変容する可能性が出てきます。そういった議論の中で考えますと、今後政府が考えているスポーツだけではなく文化、観光、ITも含めた企業立地促進法の議論が動いた場合、これに対応していかないといけないのではないかと考えます。そういう意味では、第8次総合計画は良くできていると思ったのですが、スポーツ以外のことをどう取り込んでいくかという議論は今後やって行くべきではないかということを経験を踏まえ感じました。

今は、スポーツ単独で動く時代ではなくなっていて、全てを連動させないといけない時代になっている感じがします。私の意見を含めてご意見を頂きたいと思います。大胆なことを言うと、スカイホール豊田や豊田スタジアムを核として、自分のチームを持って新たな投資をするといったことも経済産業省的にはありうると思います。

経済産業省の議論はかなり先鋭的に進んでいまして、私が逆に歯止めを掛けるような議論をしています。経済産業省の考えるスポーツの産業化は、協会とかは関係なく、地方がどんどん興行をやればいけないかというような話になっており、それは違い、各国内競技連盟やリーグとの連動を考える必要があるというように歯止めをかけるような意見を言っている状況です。

また、アリーナをどんどん作ろうという動きがあるのですが、経済産業省はそれが地域経済、産業の活性化の核になるのではないかと考えていると思います。その辺りの情報がおそらく来年には具体化され、ラグビーワールドカップや東京オリンピックに繋がり、さらには、2026年アジア競技大会や、札幌が立候補を計画している冬季オリンピックに繋がっていく話になると思います。いずれにせよ民間が核となって地域経済を引っ張っていくということで、国費でスタジアムを作れということではないということを経済産業省もスポーツ庁も考えていて、スポーツの産業化は急激に進むという感じがしています。

委員：スポーツと文化を一体でやっていくということなので、この通りになるかどうかは分からないというお話の中で、ワールドカップに関してはラグビーワールドカップ推進課を設置し、そちらでやっていくということですが、スポーツコミッションの中で一緒になって、情報共有をしていかないと経験が残っていかないと考えます。ラグビーワールドカップ推進課はおそらくワールドカップが終われば無くなるので、経験が引き継がれない。国際大会を誘致した経験が引き継げるような形でやっていただければと思います。

事務局：2005年の万博開催時に、登録者数数百人の大きなボランティア組織を作りましたが、商業観光課が引き継ぎました。また、エコポイントは環境政策課が引き継ぎました。無くなったものもありますが、あの頃に行った施策で今でも継続されている事業もありますので、ラグビーワー

ルドカップについても同様にいろいろな課でそれを引き継いでいくということになると思います。

会 長：そこにスポーツコミッションが永続的に参加するということですね。

委 員：外部からの専門的な知識のある方を雇用されるというところで、会長の様な見識のある方が最初から組織に入られた方が軌道に乗っていくのかなということ、個別委員ヒアリングでお話しをさせていただきました。

ラグビーワールドカップについてですが、スポーツコミッションはラグビーワールドカップを契機とした地域活性化に繋がる組織だと思います。開催支援委員会はワールドカップの開催を支援する組織とし、それとすみ分けて、スポーツコミッションはワールドカップを契機に地域の活性化をしていく組織としていけばよいと思います。

会 長：そのあたりのすみ分けについてもこれから議論していくのでしょうか。生涯活躍部のスポーツ課とラグビーワールドカップ推進課でおそらく事業が重なりますが、すみ分けは決まっているのでしょうか。

事務局：国際まちづくり推進課を今年4月に立ち上げた段階で、既にすみ分けはできています。ラグビーワールドカップに関して言えば、施設に関すること、タグラグビーなど子どもたちへのラグビーの普及についてはスポーツ課が担っています。それ以外のものは全て国際まちづくり推進課の方で担当しており、業務分担は明確です。

会 長：この計画が進んだとしても、現状のままということでしょうか。

事務局：現状のままでおそらく進むと思います。

会 長：ラグビーワールドカップ推進課は、国際まちづくり推進課とは別になるのですか。

事務局：今の国際まちづくり推進課から、ラグビーワールドカップに特化した課をもう一つ独立させるイメージです。

委 員：ラグビー関連部署がすごく一杯ですね。

事務局：はい。しかし、やることのすみ分けはしっかりできています。

委 員：ワールドカップのことが前面にでてきていますが、市の中にも今現在、ラグビーワールドカップ2019愛知・豊田開催支援委員会という組織があり、今度ラグビーワールドカップ推進課という特化した部門ができます。逆に開催都市から日本協会内にあるワールドカップ組織委員会に出向している人もいるなど、色々な組織があります。

我々としては、会場が決定し、開催期間が決まり、組合せが決まってどこのチームが来るか

決まり、公認キャンプ地がどこになるのか、事前キャンプ地がどこになるのかが決まり、ラグビーワールドカップ推進課と一緒に、どのようにしてまちぐるみでワールドカップを盛り上げていけるか。ということを考えていくことだけで頭が一杯です。資料の目的と役割に、「スポーツを通じた交流人口の拡大、地域経済の活性化や中山間地域の振興を図る」とありますが、ワールドカップに向け、一過性の大会だけで終わらせず、いかにレガシーとして残していくか。ということが一番大きな課題だと思います。開催することは決定したわけですから、盛り上げに関してはこれから協会、市町、県が力を合わせて色々な知恵を出し合いながらやって行かないといけないと考えています。もっと先のことと言いますと、大会が終わってからせっかく盛り上がったラグビーをブームで終わらせることなく引き継いでいくためにはどうすればよいかということも合わせて考えて行く必要があります。

大会が終わったらそのまま萎んでしまわないように考えていく中で、具体的な話をすると、自然豊かなところに、2面、3面のラグビーやサッカーができるような天然芝や人工芝の施設を作って、そこを拠点にしながらいかに宿泊施設も整備していくかということを進めていければよいと思います。そこに小中学生を集めれば、保護者が付いてきますので、会長がおっしゃったアミューズメントを含めた商業施設を盛り込むなど、地域が活性化するようなハードを含めたレガシーを考えていくことも必要になってくると思います。夢が膨らむような話で、今から色々構想を練っていかなければいけないとは考えていますが、協会として個別に動けるものではないので、これからできるワールドカップ推進課や支援委員会と一緒に、先のことも含め色々と考えていきたいと思っています。

会 長：ラグビーワールドカップの後のレガシーとして色々なものが残ると思いますが、それを検討する会というのは豊田市にはあるのですか。

委 員：そこまで手が回っていないというのが現状です。

会 長：ワールドカップでは、参加国の大学チームが開催国の大学と練習試合をし、大会を観て帰ることが通例になっています。筑波大学にもオーストラリアのクイーンズランド大学のラグビー部が事前交流の打合せに来ており、観戦後の交流についても考えているようです。ワールドカップの際には、筑波大や東大、中京大、京大などと試合をし、京都観光をして大会を観て帰るといったツアーを既にオーストラリア側は考えているようです。そういった話がラグビーワールドカップでは動き始めています。例えば中京大学の国際的なスポーツネットワークなどと連動させていくなど、既に動き始めなければならない時期だと思います。ハード面のレガシーは当然ありますが、長野オリンピックのスケルトン会場のようにならないよう、市民に使ってもらえるように、運営ソフトと組織づくりを同時に進める必要があります。

委 員：そういうイメージを持つてはいるのですが、どうしても目の前の大会をどう盛り上げるか、集客はどうするか。と言ったことばかり考えています。

会 長：東京オリンピックの組織委員会も同様の状況ですし、そのようになってしまうのはやむを得ないと私も思います。では、そのような中でどうやるかということ、おそらく大学などの拠点が重

要になると思います。

委員：ラグビーのお話が出ましたが、様々な競技が同じように動いているため、様々な組織で色々なタスクフォースが出ています。そのため、トップマネジメントはどこかを決めてやらないと混乱してしまいそうな気がします。また、全てはできないので豊田市の中でやるものとやらないものの優先順位を決めることも必要になってくると思います。

委員：サッカーの場合には、以前は強化を重点に活動していましたが、普及をベースにし、草の根的な活動にも投資をしています。そうすることで、ピラミッドの底辺を拡大しながらトップのレベルを上げていくことを考えています。ただし、かなりミッションが多くなり、現場は大変です。

スポーツは、競技力の高いものから娯楽性の高いものまで幅広くあります。どうしても競技力の高いものに着目しがちですが、そうでないものも大事で、そうした幅の中で施策を考えていかないといけないと思います。

本筋のところは豊田市の行政が先頭に立って引っ張っていくことが重要ですが、一方では、市民が企画・計画して進め、行政はファシリテーター的に後ろから支えて、市民主導の事業がある程度軌道に乗ったら、行政支援から放してしまうということも必要かと思えます。それがあってはじめて豊田市に合ったスポーツだと言えるとと思います。我々も考えていますが、行政が中心になってやっていくとどうしても幅をもって進めていくという部分がずれてしまいます。例えばJリーグでは、多くのチームが幅の部分を持っています。資料にある「個別プロジェクトの進め方」がそれにあたると思いますが、どこまでできるか、期待したいと思えます。

会長：トップスポーツだと、市民が観るだけのお客さんになってしまいます。「市民が参加して、豊田市外の人たちも参加して楽しむ」、そういう草の根的なスポーツ活動が増えないと、ただ市民が観ているだけといったことになります。どうすれば、市民が入りこめるかが重要になると思います。市民が中心になって大会に入って行かないと、大きなイベントが来ても観るだけのお客様で終わってしまいます。

委員：私の所属するスポーツクラブでは、ラグビーについては、タグラグビー大会などは毎回会員に声をかけて出場しています。指導者の問題もあり、クラブの種目にラグビーを取り入れることまでは取り組めていません。

ワールドカップでは多くの外国人が来るということで、昨年からはスポーツクラブのクラブハウスに間借りをする形で、道案内などに特化した英会話を学ぶ教室をはじめています。教室が始まって1年が経過し、大会から声を掛けて頂いたり自主的にまちなかで活動したりする中で、「Toyota まるごとおせっかい」という名前を付けて外国人の方が豊田市に来た時におもてなし、おせっかい活動をしています。普段からまちの中に豊田市を愛する人たちがいて、そこに外国人の方が来た時に気持ちよくお迎えができるような人材を育成したいという説明をしたところ、元々の英会話教室の20名程に加え、新しい人が加わり64人のメンバーが揃いました。12月には1回目の勉強会を開催しました。英語の教室は続けつつ、勉強会メンバーが集まってまづまちの中を知ろうということで、既存のまちの地図をグループごとに囲み、まちをどれだけ

知っているか、掲載されている場所に行ったことがあるか、どうすればもっと外国人の方や選手が来た時に豊田の良さを知ってもらえるのだろうといったことの話し合いをしました。最初は、ここへ来たら英語を教えてくれるとか、ボランティアをするためにお世話をしてもらうといった姿勢の方も中にはおられました。徐々に皆でもっと勉強しようとか、ラグビーワールドカップをどう迎えたいかといった雰囲気になってきました。また、活動日だけではなくずっと豊田市の住民として活動していきたいという雰囲気にもなってきました。

現在は、例えば大会などで町中に人が増えそうな日を教えて頂いて活動をしたりしています。東京に外国人の道案内などを行っている「おせっかいジャパン」というボランティアグループがあり、全国で講演されていますが、私たちもその方に会いに行き豊田市でやるとしたらどんな形でできるかといったことを教えて頂いたり、そのグループとの連携で日本全国にそういった人を増やそう、そういう活動をしましょうという話にもなっています。今日のお話もクラブに持ち帰って、直接的ではないですが、動けるところから動こうと思います。

会 長：そういう形の企画や活動が繋がるような仕組みをいかに作るかが大切だと思います。

委 員：スポーツコミッションの組織のあり方ですが、資料に書いてあるような形にはならず、スポーツのみでなく文化とも連携を図るという理解でよいでしょうか。資料にあるように事務局体制を3人から5人でやるとすれば、スポーツに絞った活動だけで精いっぱいになるのではないのでしょうか。現実的なところで、今回の提言に沿って走りつつも、可能であれば文化との連携を図りつつ組織を変えていくなどの方法もあるかと思いますが、その辺りの方向性はどのようにお考えでしょうか。

事務局：今回の提言内容に対してやることは変わっておりません。スポーツコミッション事務局を体育協会に来年4月早々に移行するということが少しわからなくなったということです。いずれにせよ今回の提言内容についてはスポーツ課が担っていきます。資料の裏面にある要員体制については来年早々にはそうならないということにはなりますが、スポーツ事業は先行してやっていきますので、提言頂く内容、やって行くこと、目的は変わっていません。

会 長：事務局を置く場所については不透明になりましたということですね。

会 長：ご意見ほかになければ、時間も過ぎてまいりましたので計画についての承認を採りたいと思います。今回の内容については、体育協会内に事務局を置くことに関しては、第8次総合計画との関係で変わるかもしれません。ということです。これまでの話を聞いて皆さんに挙手を求めるには難しいところもありますが、おそらく第8次総合計画が動き出した時に修正が掛かってくるのではないかと思います。そういった意味で皆様のご意見を含めまして、原案からの修正につきましては私会長に一任させて頂けないかというご提案をさせて頂きたいと思えます。原案の主旨、目的、流れ、細かく言うと事業部を置く場所については変わる可能性があるであろうというところについては私に一任させて頂いて、本提案を議決させて頂くご提案をさせて頂きたいと思えます。計画案が変わるところについては、会長としてご説明をしていきたいと思えます。

議決に関しましては、豊田市スポーツ推進審議会条例第7条によりますと、「出席委員の過半数で行い、可否同数の時は議長の決するところによる」とありますので、まずはご出席の皆様方に挙手頂きたいと思えます。修正については会長に一任頂くということ踏まえた上で、提言内容につきまして、賛成の方は挙手をお願いいたします。

全員挙手

会 長：ありがとうございます。皆様賛成のご意見を頂きまして、原案通り承認させていただきたいと思えます。修正につきましては皆様方に丁寧にご説明をしながら、会長に一任をして頂くという形で進めさせていただきます。

■議題（2）豊田市スポーツコミッション（仮称）の今後の活動について

会 長：続きまして第2の議案、豊田市スポーツコミッション（仮称）の今後の活動についてですが、こちらでは先ほど承認を頂きました提言を基に今後の活動について自由にご意見を頂きたいと思えます。まずはこの議題について事務局からご説明いただきたいと思えます。

事務局：資料に基づき説明

会 長：はい、ありがとうございます。皆様から頂きました今後の事業のアイデアをまとめて頂きましたが、付け加える案など皆様ご意見をよろしくお願いたします。

私の方から1点申し上げます。スポーツ情報発信プロジェクトについてですが、豊田市内だけではなく、外に飛び出すようなプロジェクトがあってもいいのかなと感じました。東京オリンピック・パラリンピックでも、地方都市のホストタウン等の活動の中で、東京で存在会を示すことが大事ではないかということが議論になっています。例えば、トヨタ自動車と豊田市が連携し、トヨタ自動車のホピタリティハウスの中で、観光客を豊田市に引っ張ってくるようプロモーションするような取組です。東京でチケットがなく、暇な人に地方のキャンプ地に足を運んでもらうといったようなプロジェクトを各キャンプ地は考え始めています。スポンサー企業と連携して、東京で遊ぶことに飽きた人やチケットの無い人に対して、トヨタ自動車の工場見学ツアーを東京で募集するといったようなことです。

これは物産販売と同じ考え方で、いかに東京の好立地に自治体が店を押さえるかといった議論が始まっています。Jリーグの例では、相手チームのスタジアムまで宣伝に行き観客を引っ張ってくるセールスをしている地域もあります。情報発信プロジェクトでは、豊田市の中でやるだけではなく、もっと積極的に外に飛び出すようなプロジェクトがあってもいいのかなと感じました。

委 員：例えば今のような情報収集、事例や市民ニーズなどを組織として収集することが重要だと思えますが、その役割もスポーツコミッションが担うのでしょうか。

会 長：例えば、さいたま市や新潟市などはスポーツアコード・コンベンションに参加し、そこで国際競技連盟の会長と直で話をしながら開催地セールスをして、ツール・ド・フランスさいたまクリテリウムなども誘致しています。

委 員：例えば、サッカーで言えば、時之栖（静岡県裾野・御殿場市）、和倉温泉（石川県七尾市）、J-GREEN 堺（大阪府堺市）といった事例がありますが、「誰がどうやって作ったか」といったことが今後大事になってくるのではないのでしょうか。

事務局：オリンピックに関して言うと、キャンプ候補地としては既に申請をしていますが、豊田スタジアムがサッカーの競技会場になるかどうかということが未だに分からない状況です。競技会場になるとおそらくある程度前に現地入りするチームが出てくると思います。そうした場合に、事前キャンプを受け入れるホテルがありません。今、ホストタウンでも動いていますが、競技会場になるかどうかを早く決めてもらわないと我々はスタートを切ることができません。そのような中で、豊田市から派遣で 1 人イギリスの姉妹都市へ行っていますので、そちらからイギリスにアプローチを掛けたりしています。

会 長：筑波大学にもスイスのナショナルチームの強化部長が来て、どういう種目のキャンプを張れるかという議論を始めました。ほかの国とは交渉をしないでくれと言われ、スイスの判断待ちになっていますが、まちなかでは、スイスフェアのような催しが始まっており、これらとどう連動させるかということで、茨城県も入って議論をしています。こういったことを取りまとめる際に、茨城県にはスポーツコミッションが無いので筑波大学が取りまとめています。おそらく、そういった動きがワールドカップでもあるし、オリンピックでもあるということですが、その時にスポーツコミッションがコアになって動かないと情報は集められません。

事務局：相手国に渡航費を払って来てもらうのは有効な手段だと思いますが、豊田市の場合は中京大学という施設のにも良い大学があるということで、中京大学にある国のトップコーチが視察に来て調整をしている最中です。アンテナを張って色々なところで豊田市の施設を売り込んでいくということが大事だと思いました。

委 員：優先順位もあると思いますが、一旦は計画の風呂敷を広げてから優先順位を付けていくのかなと思います。水面下では様々な接触が行われていますし、アジア大会の場合は競技数も莫大に増えますので、受けるものと諦めるものを見据えた上で優先順位をつけ、継続的に色々なものを取り込んでいけるような形になれば良いと思います。豊田市だけではなく名古屋市や愛知県との兼ね合いの中でもどのように動くかといったことも大きなポイントになるかと思います。

会 長：つくば市の場合、ホテルは茨城県とつくば市が連携しないと対応は難しいと思います。競技によっては霞ヶ浦でボートをやりたいから地元の市と連動させる。といったように県が動いてくれないと調整ができません。会議体を作って、つくば市に来た人が不便に感じる部分は県が補助をすることが必要です。おそらく大会の 2 週間や 1 か月前の話ではなく、トップチームが来なくてもアンダークラスの人が来たりするということが青森などではすでに始まっています。

交流を続けることが大事だということで、早期に、事前キャンプ誘致が決まったところについてはアンダークラスの合宿も受け入れています。

筑波大学と調整中のスイスは夏を経験したいといっています。日本の夏は暑いということは分かっているので夏の視察をしてから決めたいという国も沢山あります。ところが東京都内のホテルは組織委員会が押さえていて使えないので、各協会の国内オリンピック委員会は東京周辺を回るしかない状況です。そのため、今度は関東一体のホテルを各国の選手団が抑えることになる、2020年のインターハイ（北関東で分散して開催予定）も、開催できないのではないかという議論にもなっています。

事務局：ロビー活動的なことは、行政機関の意思決定がないとできないことなのでスポーツコミッションの活動の中に入れるべきことかと思えます。

会長：スポーツコミッションは完全民間ではないので行政も入っています。基本的に施設は行政が持っていますので。さいたま市のスポーツコミッションなどは観光協会の中にありますが、行政の事業です。行政との連絡なしにロビー活動はできません。

委員：ワールドカップだけで手いっぱいなので考えが及びませんが、先ほどのインターハイについては全国を9地区に分けて地区ごとに分けて受け入れようということで、単独県では受け入れられない状態になっています。これから先の大会受入のあり方を豊田市だけではなく県ぐるみ、隣県も含めて考えていくようなことも必要ではないかと思えます。

委員：強化について、他県の例では、中学校のサッカーの指導を大学のインターンシップ制度を利用して行っているところがあります。インターンシップとして実施すれば、学校側と大学生のどちらにもプラスになります。サッカーの場合では、さいたま市が、サッカー部があるが指導者がいない学校の部活動を大学生が指導しています。そうした取組をしてもらえると競技団体としてもありがたいです。ワールドカップが終わった後も継続してラグビーを普及させるために、大学と連携してそうした取組を進めて、ラグビー強化の基盤整備をすればよいと思えます。

会長：コーチング分野だけでなく、マネジメント分野にもインターンシップを入れると良いと思えます。例えば各協会のマネジメントを経験するインターンシップなどがあれば筑波大学でも考えています。体育系の大学はコーチングやマネジメントの分野の現場が欲しいので、現場と学生をどう繋がるかということを議論しています。先週、東京大学が日本サッカー協会と提携を結びましたが、大学側も現場が欲しいのでそういう動きになっています。

委員：今後の活動、展開例をご説明頂き、2~3年後にイベントが色々あり、アジア競技大会も決定しているという話をお聞きしました。ソフトの部分は知恵を出し合ってやって行けると思いますが、これから税収が減っていく中で、施設や駐車場の整備等々、ハード面の整備について何かお考えはあるのでしょうか。

事務局：あくまでも、既存施設の改修が中心となります。例えば運動公園の陸上競技場はキリンチャレ

ンジカップ時代から代表チームに使って頂いていますが、昭和 62 年の建設ですので老朽化が進んでいます。その中でラグビー協会とサッカー協会の方に海外や日本の代表チームが練習をする場合にどのような改修が必要かということについて電話ヒアリングを行いました。その中で整備できるものは今後実施していく予定です。大きな大会に合わせて新たに施設を開設することはできませんが、既存施設の改修で対応していきます。豊田スタジアムは、照明の照度が足りません。ラグビーワールドカップの組織委員会からまだ照度についての指示をいただいていませんので動けないところがありますが、照度やドーピングルームの増設については今後必ず動いてきます。資金が必要ですが、対応してまいります。

委員：限界はあるのかなという気もしますが、早い段階で確定していくのが良いと思います。今日は提言も可決されましたので積極的に進めて頂ければと思います。

事務局：ありがとうございます。また、トップアスリート目線だけではなく、市民が参加するためにこんなところを直して欲しいといった地元のご意見なども頂きたいと思っています。すぐに動けるという保証はありませんが、ご意見はスポーツ課の方に寄せて頂ければと思います。

会長：経済産業省との議論などでは、今後はいかに産業化して、税金ではなく民間でお金が回る仕組みを作るかが焦点となっています。ただし、人が集まる都心はいいとして、立地上人が集められないようなところはどのようにしていくかが課題になっています。

税収が伸びていく時代ではなく、高齢化すればするほど支出は増えていきますので、国費で施設を建設や改修するのは 2020 年までで、アジア競技大会も含めて、これからは地元で頑張っていていただくしかないと思います。そうすると、かなりスポーツを産業化していく必要があり、産業化で生活課題を解決するという発想で、考えていかないといけないと思います。

委員：ご提示いただいたプロジェクト展開例には、なるほどと思う部分が多いのですが、例えばスポーツ情報発信プロジェクトは主催者にとっても非常に重要な要素ではないかと思います。大会規模や大会特性など千差万別だとは思いますが、資料にあります「市民広報の手法の整備」、「対外的な PR 手法の確立」、この辺りで豊田市の地域特性に合った PR の方法論を色々な形でフォローアップできればいい循環ができるのではないかと思います。言うのは簡単ですが、どうやるかは難しい部分もあると思います。経験値や知見を上げて蓄積していくには時間が掛かるかもしれませんが、スポーツイベントだけに限らず優先順位を考えて取り組んでいくことも必要かと思います。

会長：その意味で、IT や情報通信は非常に重要ですね。企業の方々と連動した勉強会なども必要ではないかと思います。トヨタ自動車もオリンピックを機に様々なアクティベーションを展開されると思います。おそらく、車はどんどん IT 化して行くので、それとスポーツの IT とが連動ができれば効果的な情報発信につながると思います。

委員：要望ですが、今まで通り、普通にできることをやっても意味がないと思いますので、頑張ってもできないようなことに挑戦していかないと地域は変わっていかないと。例えば公共

でやっていたことが色々な団体が知恵や人を出し合って達成できるならばそういったことに取り組んで頂きたいと思います。せっかく官・民の連絡協議会ができるのであれば、情報共有を図りながら補い合えるような形でやっていただければと思います。

委員：ラグビーの話になりますが、昨年ワールドカップがあり、色々なレガシーが残り、これまでで一番成功した大会と言われています。その一つとして、ロンドンを訪れた人に「また訪れたいか」、「友人にロンドンを勧めたいか」という質問をしたところ 9 割ぐらいの人が「はい」と回答したということが一番のレガシーだと言われています。そうしたところにスポーツコミッションが取り組んで頂ければ嬉しいと思います。ラグビーワールドカップは 40 日間あり、外国人の平均滞在期間は 14 日と言われているので、今までできなかったことができるのではないかと思います。また、会長が言われたように東京オリンピック時に東京から豊田市に人を呼ぶといったような取組みは、スポーツコミッションの第 2 期にも生きてくると思いますので、スポーツ大会を契機に地域の活性化をする積極的な取組みをして頂きたいと思います。

委員：私も、スポーツコミッションに対してのお願いですが、せっかく皆で時間をかけて提言を作ったので、今までのやり方ではできないことにチャレンジをして欲しいと思います。3 つの基本方針がありますが、1 つめの「国際水準の大規模施設の利活用推進」と 2 つ目の「都市部と中山間地域が連携した受入体制の整備」はラグビーワールドカップもオリンピックも開催が決まっているので、チームや観客が来たらやらなければいけないことだと思います。なかなか難しいことだとは思いますが、私は、3 つ目の「スポーツを通じた中山間地域の交流人口拡大」について、中山間地のハードとソフトを含めたインフラを変えていくことに積極的に取り組んでもらえればと思っています。例えば、資料に「自転車走行環境の整備」とありますが、これは事務局の方がヒアリングに来られた時に申し上げた意見です。私は韓国のソウルに駐在していましたが、スポーツ環境が大変整った都市で、川沿いには舗装された道路が設置されていて、山の方まで行くと廃線を使ったサイクリングコースが整備されています。景色の良いところを自転車で走ることができ、ソウルの中心からサイクリングコースまで電車で自転車を運ぶことができます。土日は通常の車両以外に自転車を立てかけて運べる特別列車が 3 両ほど編成されたり、駅ではエレベーターに自転車を乗せることができたり、階段も自転車の車輪が乗るような形状になっています。都心に住んでいる人が電車でサイクリングコースまで行って帰って来られるようになっています。コースの途中にもパンクした時のための自転車ショップやレストランがあります。また、私の見た限りですが、小中学校の校庭が人工芝化されています。豊田市に生まれ、住んでいる人が「ここは凄い」と誇れるようなことをやってもらえればいいと思います。

会長：スポーツ環境デザインとありますが、環境全体がスポーツを重視した環境になっているということだと思います。

それでは大体のご意見は頂いたということで修正に関しては私が担当し、皆さんとの調整を最後にしていきますが、本日の議事についてはこれで終了させていただきます。

皆さんにご協力いただきまして感謝いたします。ありがとうございました。